

親子で防災講座 「やってみる」ことが大切

5月4日にさいき城山桜ホールの小ホールで「知っちゃよう！そなえちよこつと防災講座」が開かれ、5組の親子が受講した。「そなえちよこつと！プロジェクト」の明石さんを講師に、地震のメカニズムなど災害の基礎知識から便利な防災グッズの紹介など、災害時に自分の又は家族の命を守るために知っておくべきことを学んだ。

「そなえちよこつと！プロジェクト」はちよつとでも防災について考えてもらうため、県内各所で防災講座を行なっている。今回は防災についての座学のほか、防災食を作って食べたり、簡易トイレの吸水の様子を観察するなど、実践を通して災害に備えることの大切さを学んだ。

明石さんは、「受講者に限らず、家族と防災について考える。そして、実際にやってみることが大切です。」と話した。「やってみる」とは、今回の講座のように、災害時に使うグッズを実際に試したり、防災食を食べてみるという



(講座の様子)



(簡易トイレの紹介)



(防災食作りと試食)



新 規 特 派 員
随 時 募 集 中

さいき城山桜ホール子育て特派員は、市内在住の小学生・高校生が、イベントや日常の様子など、桜ホールにまつわる取材を行い、記事を作成・情報発信する活動です。新規子育て特派員を随時募集していますので、希望される方は、さいき城山桜ホールまでお問い合わせください。問い合わせ先：さいき城山桜ホール ☎0972・24・2228

ことだ。災害時に初めて使う物には、思いがけない不具合や不便が付き物だと言う。「やってみる」は、防災グッズに限られた話ではない。避難経路の確認や、災害伝言ダイヤルの使い方を試しておくことも大切だ。家族で楽しく実践することで、一緒に確認した記憶が残りやすく、大人も子供も災害により役立ちやすくなるのだ。災害伝言ダイヤルは毎月1日と15日に無料で利用できるため、一度、家族で実践してみてもどうだろうか。

(子育て特派員 森崎和)